

地下水位制御システム(フォアス)導入で水田畑利用促進、産地化 ～農事組合法人 読合堂営農組合～

経営体の概要

現在:平成29年
基幹作物:水稻、小麦、大豆、キャベツ、かぼちゃ
経営面積:34ha(水田)

取組の経緯と経営転換のポイント等

農業用機械への過剰投資等が課題となるなか、地域農業の維持、営農の効率化を目指して、平成5年度に既存の農業組合の下部組織として営農部会を、さらに平成20年度に農事組合法人読合堂営農組合を設立した。こうしたことを経て国営かんがい排水事業による用水安定供給、ほ場整備事業による汎用化ほ場を活用した法人経営による集落営農が可能となった。その一方で、この地域では排水性が悪かったことから、地下水位制御システム(以下「フォアス」という。)を導入し、より効率的な水田畑利用を進め、キャベツ等の産地化を進めている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

平成5年度の営農部会設立以降、水稻、麦、大豆の集落営農を行ってきたが、ほ場の排水性に問題があったため、単収が低く、ほ場での作業性も悪かった。このため、平成22年度から各種事業を活用してフォアス整備を進めることとした。フォアスによる操作では、キャベツ、大豆、麦など水田畑利用時には水位を田面下30cmに設定して湿田を解消し、水稻栽培時には田面より水位高く設定するなど、水管理労力を大幅に軽減することができる。また、水田畑利用作物では収量が2～3割程度増加し、水稻のかんがい用水も7割程度に節約できる。平成29年度時点では約8割のほ場でフォアス施工が完了しており、今後の計画的な整備のため、整備費の積立を行っている。

②流通・販売の工夫

平成23年度にJA、企業、東近江市等を構成員とする東近江市フードシステム協議会が設立され、加工・業務用野菜の産地化を推進することとなった。そこで、これに参画し、フォアスによって乾田化されたほ場を有効に活用し、平成24年度から加工用キャベツの産地化を進めている。平成28年度には播種機、畝立成形機を導入し、栽培面積を拡大してきている。なお、東近江市フードシステム協議会は平成29年4月に解散し、東近江プライマリーCo.協議会が引き継いでいる。



集落営農を進めるための勉強会



フォアス設置ほ場でのキャベツ栽培



大豆収穫作業

事業概要

事業種:国営かんがい排水事業
関係市町:滋賀県近江八幡市、東近江市、
愛知郡愛荘町、犬上郡豊郷町
受益面受:6,877 ha
事業期間:平成26年～34年
事業目的:用水改良
主要工事:ダム湖内掘削1ヶ所、用水路11km、
地下揚水機22ヶ所、調整池6ヶ所等



湖東平野地区

<問い合わせ先>

近畿農政局 農村振興部
農地整備課 営農担当
電話:075-414-9541
(内線2565)

(平成29年度調査時点)